

経済・金融 フラッシュ

企業物価指数 2023 年 9 月

～契約通貨ベースの輸入物価指数(前月比)が
12 カ月ぶりのプラス～

経済研究部 研究員 安田 拓斗

TEL:03-3512-1838 E-mail: t-yasuda@nli-research.co.jp

1. 国内企業物価指数(前年比)は伸びの鈍化が続く

日本銀行が10月12日に発表した企業物価指数によると、2023年9月の国内企業物価の前年比は2.0%(8月:同3.3%)と9ヵ月連続で伸びが鈍化した。

内訳をみると23類別中、19類別が上昇し、4類別が低下した。飲食料品は前年比5.4%(8月:同6.1%)、石油・石炭製品は同3.2%(8月:同7.4%)とそれぞれ伸びが鈍化した。また、電力・都市ガス・水道は政府による電気・ガス価格激変緩和対策により前年比▲18.0%(8月:同▲11.5%)と3ヵ月連続でマイナスとなった。

国内企業物価の前月比は9月に▲0.3%(8月:同0.3%)と3ヵ月ぶりにマイナスとなり、夏季電力料金引き上げの影響を除くと2ヵ月ぶりにマイナスに

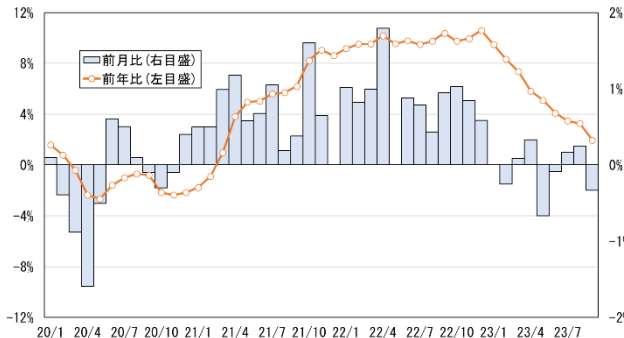
転じた。内訳をみると23類別中、14類別が上昇し、7類別が低下、2類別で横ばいとなった。化学製品は前月比0.6%(8月:同0.8%)と伸びは鈍化した。一方、電力・都市ガス・水道が前月比▲2.4%(8月:同▲4.3%)と5ヵ月連続でマイナスとなり、石油・石炭製品が同▲4.1%(8月:同5.1%)とマイナスに転じたことが全体を押し下げた。

企業物価指数の推移

| | 国内企業物価 | | 輸出物価 (円ベース) | | 輸入物価 (円ベース) | |
|--------|--------|------|----------------|------|----------------|-------|
| | 前月比 | 前年比 | 前月比 | 前年比 | 前月比 | 前年比 |
| 22年 8月 | 0.4 | 9.8 | -2.3 | 17.4 | -2.1 | 43.1 |
| 9月 | 0.9 | 10.4 | 2.9 | 20.2 | 5.3 | 48.7 |
| 10月 | 1.0 | 9.7 | 1.1 | 18.7 | -0.3 | 42.3 |
| 11月 | 0.8 | 10.0 | -2.0 | 15.1 | -5.3 | 28.0 |
| 12月 | 0.6 | 10.6 | -3.3 | 12.1 | -4.6 | 22.2 |
| 23年 1月 | 0.0 | 9.5 | -2.1 | 9.0 | -4.4 | 17.0 |
| 2月 | -0.3 | 8.3 | 1.5 | 9.4 | 0.8 | 15.0 |
| 3月 | 0.1 | 7.4 | 0.7 | 7.1 | -1.5 | 9.4 |
| 4月 | 0.3 | 5.8 | 0.2 | 1.8 | -3.0 | -3.7 |
| 5月 | -0.7 | 5.1 | 1.7 | 2.0 | 2.1 | -5.4 |
| 6月 | -0.1 | 4.1 | 1.4 | 0.7 | -1.7 | -11.7 |
| 7月 | 0.2 | 3.5 | -0.2 | -0.5 | -0.6 | -14.7 |
| 8月 | 0.3 | 3.3 | 1.9 | 3.7 | 1.7 | -11.4 |
| 9月 | -0.3 | 2.0 | 1.7 | 2.5 | 2.1 | -14.0 |

(資料) 日本銀行「企業物価指数」

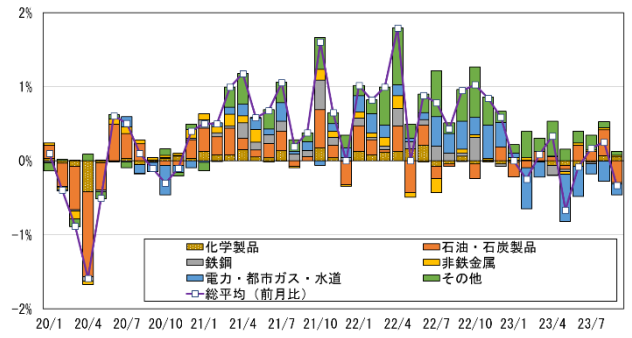
国内企業物価指数の推移



(資料) 日本銀行「企業物価指数」

(年・月)

国内企業物価指数の前月比寄与度分解



(資料) 日本銀行「国内企業物価指数」

(年・月)

石油・石炭製品がマイナスに転じたのは、9月7日からガソリン等の新しい激変緩和措置が実施されたためである。激変緩和措置は5月29日の週以降、補助率が引き下げられてきたが、新制度は168円から17円を超える分は全額支援し、17円以下の部分は10月4日まで30%、10月5日から12月31日まで60%支援する。

さらに、政府は9月使用分までとしていた電気・ガス価格激変緩和措置を、補助額を引き下げて12月使用分（翌年1月請求分）まで延長することを発表している。補助額の引き下げは9月使用分（10月請求分）からで、都市ガスが1㎡あたり30円から15円へ、電気が低圧は1kWhあたり7円から3.5円、高圧は1kWhあたり3.5円から1.8円へ引き下げられる。

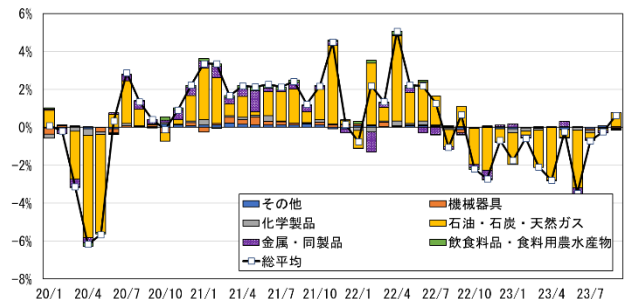
2. 輸入物価(契約通貨ベース)の前月比は12ヵ月ぶりのプラス

2023年9月の輸入物価は、契約通貨ベースでは前月比0.6%（8月：同▲0.2%）と12ヵ月ぶりにプラスに転じた。また、2023年9月の円相場（対ドル）は前月比2.0%とプラスとなったことで、円ベースでは同2.1%（8月：同1.7%）と2ヵ月連続でプラスとなった。円ベースの前年比は▲14.0%（8月：▲11.4%）と6ヵ月連続でマイナスとなった。

契約通貨ベースで輸入物価の内訳をみると、10類別中4類別でプラス、2類別で横ばい、4類別でマイナスとなった。飲食料品・食料用農水産物は前月比▲0.5%（8月：▲0.2%）と6ヵ月連続でマイナスとなった。一方、石油・石炭・天然ガスは前月比2.4%（8月：同▲0.3%）11ヵ月ぶりにプラスに転じた。

円ベースでみると、9月の輸入物価は原油価格が上昇し、円安が進行したことで前月比が2ヵ月連続でプラスとなった。

輸入物価指数変化率の要因分解（契約通貨ベース）



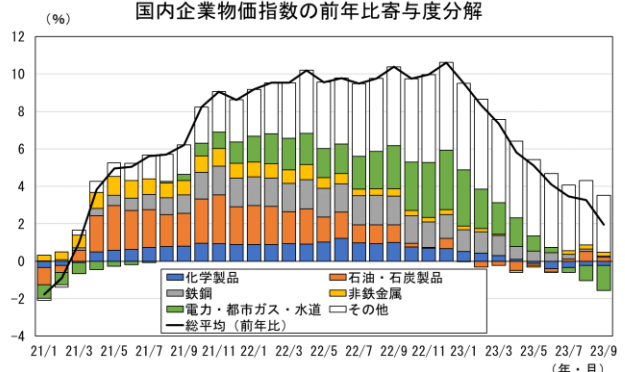
(注) 機械器具：はん用・生産用・業務用機器、電気・電子機器、輸送用機器
 その他：繊維品、木材・木製品、その他産品・製品
 (資料) 日本銀行「企業物価指数」

3. 今後も国内企業物価指数(前年比)は伸びが縮小

国内企業物価指数（前年比）は9ヵ月連続で伸びが鈍化し、2%台となった。円ベースの輸入物価は、原油価格が上昇し、円安が進行したことから、前月比は2.1%と2ヵ月連続でプラスとなり、今後もプラスを維持する公算が大きい。

物価上昇圧力は残っているが、国内企業物価指数（前年比）の先行きは前年の高い伸びの裏がでることもあり、伸びが縮小するだろう。

国内企業物価指数の前年比寄与度分解



(資料) 日本銀行「企業物価指数」

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。